

大曲農高や大学、企業タッグ「かまくらシュー」開発



13、14日に開かれる横手市の小正月行事「かまくら」に合わせ、日本大学工学部と大曲農業高校、たけや製パンが協力し、かまくらをイメージして開発したシュークリームが販売されている。今月末ごろまでの期間限定。

商品名は「秋田のかまくらシュー」。シューパフ内の

ホイップクリームはレアチーズ風味で、外側には雪をイメージしたホワイトチョコレートがコーティングされている。パッケージにはかまくらと秋田犬で秋田らしさをアピールし、観光客にも手に取ってもらいやすいデザインにした。



日大工学部では2014年、本県出身の学生や教職員らが集う「秋田県人会」が設立。翌年から横手市のボランティア団体「灯り点し隊」の活動に協力し、かまくら期間中に蛇の崎川原で行われる「ミニかまくら」の制作に参加している。シュークリームの開発を発案したのは、県人会の代表で2年生の堀川瀬奈さん(20)＝仙北市出身。かまくらをさらに盛り上げたいと思い立ち、母校の大曲農高とたけや製パンに声をかけて実現した。大曲農高からは食品科学科の2年生6人が参加し、昨年5月ごろから半年かけて商品開発に取り組んだ。

9日には堀川さんのほか、大曲農高から熊谷友結さん、今涼羽さん、高橋希々さんが横手市役所本庁舎を訪れ、高橋大市長に商品をPR。試食した高橋市長は「クリームのさっぱりとした上品な甘さがいい」と評価した。堀川さんは「秋田を盛り上げる貴重な機会をいただいた。地域の皆さんや観光客の方々にぜひ食べてもらいたい」と話した。県内のスーパーやデイリーヤマザキで購入できる。価格は店舗によって異なる。かまくら期間中は午後2時から横手焼き鳥センター(同市田中町)前で日大の学生や大曲農高の生徒が1個200円で販売する。なくなり次第終了。(石川彩乃)(2月12日(木)秋田さきがけ新聞から一部抜粋)